

(第3種郵便物認可)

愛媛新聞

そりなどの遺品 愛媛人物博(松山)へ

河野兵市さん 功績を郷土で

ワイドえひめ

WIDE EHIME

北極点への単独徒歩到達などで知られる伊方町出身の冒険家河野兵市さん(1958~2001年)の遺品を、愛媛人物博物館(松山市上野町)で常設展示する計画が進められている。そりやシーカヤックなどを搬入した妻・順子さん(62)は「夢を見ることや、世界に目を向けることの大切さを訴えた夫の志が古里の人に伝われば」と願う。

家族2人来県 「冒険家の思い感じて」 伊方など訪問

県生涯学習センター内にある同館は、愛媛ゆかりの人物を178人紹介する常設展示をしている。2021年4月に設立30周年記念として拡充する計画で、兵市さんの展示が加わる予定。
兵市さんは旧瀬戸町に生まれ20代から冒険家として活躍。1997年日本人として初めて徒歩で北極点に到達した。2001年、北極点から愛媛まで1万5千キロを旅する「リーチングホーム」の途中で遭難死した。
東京都在住の順子さんが1月末、館に搬入した遺品は、北極遠征とリーチングホームで使用した2種類のそりのほか、カメラやキャンプ用具

など段ボール約60箱分。遭難時に着用した衣類や北極点に飾ったこいのぼりなども含まれる。
遺品を保管していた千葉県の家屋が19年秋の台風で被害を受けた。子

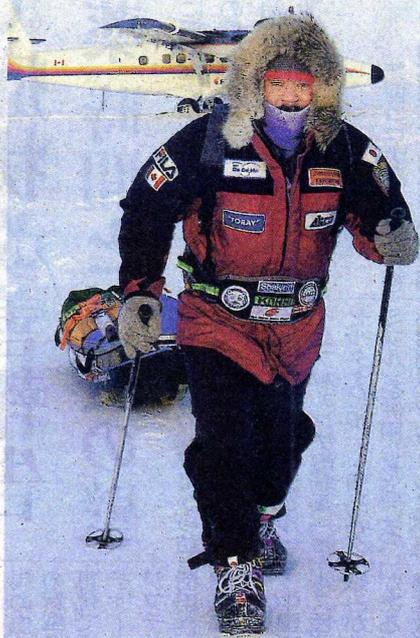
ども2人も成人し、身近に置いておく必要も少なくなった。安全に管理するためにも故郷で活用してほしい(順子さん)。館に寄託し、兵市さんの故郷伊方町でも活用してもらいたい意向を示している。

3日、順子さんと長男遼兵さん(26)は、保管状況の確認で来県。伊方町役場も訪問し、高門清彦町長らに遺品の活用を要望した。高門町長は「故郷が生んだ偉人。町の博物館を充実させたいと考えており、協力をお願いしたい」と答えた。

順子さんは「佐田岬の厳しい自然が夫を育てた。古里の良さを見直す展示になればうれしい」。遼兵さんは「伊方町で父とカヌーに乗った思い出は今でも鮮明。地元の子どもたちにも遺品に触れて冒険家の熱い思いを感じてもらいたい」と願いを込めた。(今西晋)



河野兵市さんの遺品の活用を伊方町の高門町長(右)に要望する妻順子さん(中央)と長男遼兵さん



北極点を出発する河野兵市さん(現地時間2001年3月26日)